

Tomo Toyoshima

豊島輝彦（東高7期）大谷短大美術科助教授



# 札幌東高同窓会報

昭和52年11月

## 第5号

札幌東高等学校同窓会

# 「しつけ」

東高教諭 宇野正二

最近の子供はしつけが出来ていない  
という。しつけは家庭の責任だとか、  
学校で厳しくしつけてもらわねばとか  
の話も又いろいろのようである。

しつけは広辞苑には、仕付とあり、  
礼儀作法を身につけること（躾）、縫い  
目を正しく整えるために仮にざつと縫  
いつけること（縫）などとある。

札幌区立女子職業学校の創立十周年  
記念誌の中に「克己自強」の「己」を  
象った白線を袴の裾につけ、白いエプロンを着用し、甲斐甲斐しく割烹美習に務める写真や、裁縫台にきちんと二列にならんと忙しくしつけの糸を走らせる髪を結った生徒の美しい姿を見つける。

昭和の市立高女時代は戦時体制とい  
う時代背景もあってか、健全なる国民精神と温良貞淑なる婦徳の涵養という  
国家的目標の下に美しさは表面からは  
影をひそめてしまった。

戦後、高校再編成と男女共学実施にともなって新しい学校生活が始まる。  
不馴れと当惑からか「東高は、廊下には紙屑がふみにじられ、いつまでも拾

われることなく、又廊下の歩行は走行と化しており、一時も騒音は絶えることなく、喧々ごうごうたるものでした（下略）（「東高新聞」第七号より）。

しかし伝統は多くの理論より人の心を捉えるもの、やがて東高は「東高生の自觉を持て」との息吹きの中から再生していく。市立高女の心と東高の心は結ばれ、長く、固い絆となる。

ところで最近の生徒は大変おしゃれになり、しつけの厳しい学校生活の中で髪や服装などに大変苦心しているらしい。高校受験に際し、東高のきびしさを敬遠する弱気の中学生もいるとか。濃紺に二本の白線のセーラー服で若さを包み、立派な礼儀作法を身につけた姿は美しい。校門の横に「高校生大サービス アイパー二二〇〇〇円、デザインバーマ三〇〇〇円、今こそ君のラバールに差をつけよう」とは理髪店の主人も勉強不足でいただけない。

躾は身を美しく飾るものであるから美と身を合わせて表わすという。

（同窓会担当）

# 第六十八回

## 同窓会総会顛末記

東高八期 河端淳一

例年ならば雪融けを待つて始める当番幹事会を、今回は早々と一月から始めた。

七月の総会まで半年はあると、いささか余裕を持って臨んだのだが、事実はこれに相違し、この半年は、東高在学の三年間の数倍も東高とつき合いを持った様に感じる毎日だった。

小中学校のクラス会の幹事をやつた経験はあつたのだが、殆んど顔も知らない先輩、後輩を一同に集める総会の運営、しかも、これ迄の同窓会に負けたくないという、いじましくもかわいらしい男の意地もはたらいて、同窓会当日が近づくにつれて、いろんなスケジュールが消化されていくばかりで、内心不安にかられるのだった。

極めて大げさに言えば、それは東高卒業生三八才の苦悩であった。しかし、個人としては不安であつても、準備委員会全体としては非常にいもどまりをみせ不安のかけらもなかつたようだ。

女二〇期、新卒の東高二七期の人達も積極的に参加してくれた、というよりも、一面では八期の我々がリードされながら、準備は着々と進行していく。

同窓生が楽しいふれあいの一時を過ごせるようなものにしたい。独創性のある

会にしたい。会費も安くしたい等等、誠に欲の深い考えを持っていたのだが、具体的な日程を消化していくうえでは第六六回準備委員会記録ノートがこの上ない虎の巻であった。

開催場所、日時、会費の決定、会券の印刷、配布、回収、プログラムのデザイン、懇親会でのアトラクション、来賓招待者への案内、宣伝、広告、当日の担当記録写真、同窓会幹事との打合せ、等々つぎつぎと討議、決定、実行していくなければならない事項は数えあげたら切りがなかつた。



受付・大先輩は御招待



幹事長あいさつ

当日前まで僅か一週間と迫った七月一〇日の第九回準備委員会の議事録をみると、会券回収状況として計三三六名と記入されている。予定の約半分であった。本当に六〇〇名は集まるのだろうか。

しかし、七月一七日当日、会場のエンペラーにはまさしく我々の予定した通りに六〇〇名に近い恩師、同窓生が集まってくれ、その不安は杞憂に終つた。これで半年間の努力や苦労が報われたと思つた。



賞品は女性軍へ

アトラクション（椅子とりゲーム）

これも極端な言い方だが、あとは会がどのように進行しようとそれはいい、とまで思えてきた。



## なつかしい校歌を唱う

うまでもない。

てまさしく、堅くるしいセレモニーに於てではなく、応援歌や校歌の大合唱といつたアトラクションの中で、最高の盛り上がりを見せたのだった。会場の片すみでささやかなバンザイをとなえたのはいい

少いはなつかしくも、てれくさくもある  
少年少女の日に戻つていくのを見ている  
と、もう総会開催の大義名分などどうで  
もいいよう思えてくるのだった。そし

は開催されたのだが、集まつた一人一人が、それぞれ充足した笑顔の中に今とな

「これも極端な言い方だが、あとには会がどうのよに進行しようとそれはいい、とまで思えてきた。



## 恩師の語らい(1)

工藤恒美氏と桐谷先生



恩師の語らい(2)

終了させることができた意を表する次第である。

六九回、七〇回と続く同窓会が、これまで蓄積されてきた歴史を継承し、立派に発展していくことを切に願わざにははない。最後に、高女二〇期、東高生先生方、そして同窓の皆さんのお力にて第六八回同窓会総会は成功のうちに

ともかく、これだけの人がなんの利益關係もないままに、安くもないお金を払って集まつてくる同窓会とは一体何なのぢやろう。およそ幹事らしからぬことをつゝ考えてしまう。

誕生し、現在ではのべ二万有余人となる。しかし、同窓会の参加者はこれだけ頑張ってみても六〇〇名。多いのはどうか。少ないのだろうか。その評価は



#### 新交・若きの應援ツール

達人ダンスタイル

東一期の面々



# 女学校時代のこと

高女十五期 菅原三枝

昭和八年四月入学、同十二年三月卒業。時局は入学一・二年前から銃に白い布を巻いた現役兵が参戦して行き、紙で作った日の丸の旗を振って見送った満洲事変、それをきっかけにやがて太平洋戦争へと発展するのですが学生生活の四年乃至五年間（補習科一年）は厳しい校則の中に平和そのものでした。先ず制服ですが四・五年前迄の和服と袴姿から洋服に定着してスカートの両横に付けた白いライン（線とは言わずこう呼びました）も卒業する頃にはこれは取った方が良い等の意見が出初めたりしました。靴下は黒の木綿で、少し高級になりますとガス入りの糸（これはガス糸と言って木綿糸に艶をかけた高級な糸だただと思います）を使つたものとがあつて、その靴下を買つてもうのが希みでした。今のナイロン等と違つて穴が空き易く思わぬ時に丸い穴が踵に空いて恥かしい思いをしました。家に帰つてから目立たね様に継の布を当てたり、カバーを履いたりしました（当時はソックスとは言わず、靴下カバーと言いました）。中学生は教練があつて軍人上りの教官が各校に居りましたから、女学生とても校則は厳しく、スカート丈は床から三十センチと決められ髪数も決められ

ていました。朝礼の後、急な点検があつて、物指しを持つた係の先生と生徒がみて廻りました。校外委員も地区ごとに置かれクラスから何人かが選ばれておりました。これは一種のC.I.A.?の様なもので知らない人も沢山居たと思います。公示されずに任命されていました。當時も不良学生なるものが結構いました。これは硬派より軟派の学生が多かつた様です。中学生と言々と言う様な話を聞いたとか、制服を着けずに街を歩く者がいるとか、上級生に對して礼を失した態度を取る者がいるとか、喫茶店に入つていたとかを報告するのです。

右の様な事はさて置き、我札幌市立高等女学校には各クラブ活動が盛んで日々熱中しました。手芸クラブ、書道、園芸音楽、弓道、卓球、籠球、排球、陸上、縄飛、庭球、スケート、スキーエ等々放課後各コートに散つて練習しました。全道女子競技大会、明治神宮競技大会の二大大会があり、明治神宮大会が、のち今のが國体競技大会に発展したと思われます。先づ全道大会に優勝して後、神宮大会の予選に勝たなければなりません。頑張りました。決勝戦は大旨立札幌高女との対戦です。十一年・十二年と連續二年、

鰐温泉と十一日間の長い旅行でした。卒業後四十周年記念同窓会を終えた今上りの教官が各校に居りましたから、女学生とても校則は厳しく、スカート丈は床から三十センチと決められ髪数も決められ

弓道、卓球、籠球、陸上と四種目も優勝杯、優勝旗を飾りました。

全校、府立高女恐るべからずで燃えに燃えました。ただ十二年本科卒業の年二月廿四日に不慮の火災の為校舎焼失して一時は意氣消沈しましたがその後の年の大会も右の様に活躍しました。

楽しい修学旅行は仙台・日光・鎌倉・東京・伊勢・高野山・大阪・京都・大



写真は五十二年六月十九日、伊藤先生、牧野昌次先生、多田たか先生、中野富先生（前より三列目中程）を囲んでの第五回同窓会です。当時の校長先生は故林酒造太郎先生でした。

昭和52年8月27日

# 北海道札幌東高等学校創立70周年

記念式典 午前10時 母校 新体育馆  
祝賀会 午後1時 札幌グランドホテル



▼式典参加の来賓（控室にて）

▼式典参加の旧職員

▼祝賀会参加の来賓



▶高女26期横田さんが美声  
を披露



# 母校学校祭に参加して

東高十二期 奥田武司

懐かしき校舎、十数年前の当時を思い出す生徒の服装等、礼儀正しく、伸々とした校風で、私を迎えてくれた東高校祭の、初参加の感想を述べさせていただきます。

今年の学校祭は、創立七十周年にちなんで、『伝統と創造へのエスプリー〇・七世紀の軌跡』というテーマのもとで高校生の文化の祭典が盛大に行なわれました。各クラブ・各クラスの展示・発表があり、今日的なテーマばかりではなく、東高の伝統の源を探ろうという試みもあります。



食堂・喫茶では、高校生の店員さんが制服に前掛というスタイル（男子も多数）で、サービスしている姿はほほえましい

## 続々 みみずのたわごと

五十二年八月二十七日一時札幌グランドホテルに於ける「東高七十周年記念祝賀会」で喋りたかった事がある。

「東高には他の高校にはない良い点がある」と或る来賓が言われたがモットモット良い事があるのです。

それは「旧万朋会」年一回親睦会という事です。

あの立派な七十年史のどこにも書いてないし、どの来賓もいわなかつたが現職員の皆さん、「万朋会」と称して現学校長高山先生を中心に文字通り一致団結し

てあれだけ厳粛な一糸乱れぬしかも学生諸君の明朗な高校生らしい（或る場合ゲバ棒で式を台なしにした実例もなきにしも非ず）態度が我々列席者一同に与えたが「旧万朋会」と組織について良く御承知ない同窓会、PTA会の皆様に敢えてこの場面に申上げる。

歴代校長（たとえば小山田氏、長瀬氏等）東高から他に栄転された後の経験ないし、どの来賓もいわなかつたが現職員の皆さん、「万朋会」と称して現学校長高山先生を中心に文字通り一致団結し

旧職員 美浦三郎

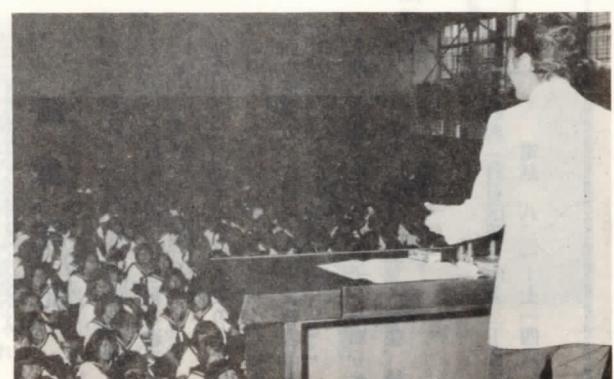
（道都大学教授）

また、漫畫家工藤恒美氏（東高二期）の講演「高校生って何」が行なわれ、東高生の共感を呼び好評でした。  
同窓会が、学校祭に参加して三年目となり、「同窓会室」も周知され、展示品も増え、来室者の数も増加し軌道に乗ろうとしています。この室は、同窓会をよりよく理解してもらい、また、卒業生と在校生の交歓の場として設けられたものであり、その目的をよく果しています。  
同窓生の皆様、母校の学校祭に参加し談の場として、時には、恩師を開んで臨時のクラス会が開かれたりしています。

ようではありませんか。必らずや有意義な一日となることと思います。



昭和52年度 旧万朋会



# 札幌東高等学校創立七十周年記念事業協賛について

本年は、東高が創立して七十周年を迎えることになり、その記念事業を実施すべく、東高後援会、PTA、並びに同窓会の三者によって協賛会が設立されました。

その事業推進のため、同窓会に対しても、資金調達についての割当があり、会員各位に趣意書を送付し募金の御協力をお願いしたところ、予想額を突破する寄附を得、初期の目的を達成することができました。

御協力いただいた会員各位には、衷心より感謝申し上げるとともに、募金状況事業概況について、次の通り報告致します。

## 募金状況

協賛会事業費として、当初六五〇万円を見込み、各団体に割当てましたが、当初の予算額を上回る九五八万円の収入を得ることができました。

同窓会としては、二〇〇万円が割当てられ会員全員に周知するため、会報を発行し郵送するなど、それらの経費として一〇〇万円前後が予想されたことから、募金目標を一応三五〇万円として会員にお願いした次第です。その結果、一二〇〇余名から三八四万円の募金があり、七十周年事業に関連しての会報発行(二回)

## 事業概況

尚、寄附者名は別紙印刷の通りです。

事業内容については、当初、記念式典

記念誌の発行のほか、諸施設・設備の整備

により、学校設施の整備・補修等をさ

らに充実することとして、追加事業を実施しました。

### ○当初計画事業

等の必要経費一六六万円を除いた二一八万円を拠出することができました。

各団体割当額と決算額

団体名	割当額	決算額
後援会	五〇	八一
PTA	一五〇	三〇〇
同窓会	一〇〇	二一八
一般篤志	一五〇	三五六
合計	六五〇	九五五

同窓会としての収支状況

摘要	収入	支出	募資金
スピーカー取付、中庭整備、校庭整備、屋外コート(テニス・バレー)整備、新体育館(バスケットゴール)整備、校内電話整備。	三八四	三八四	
グランド野球場土砂入れ、事務器購入、旧体育館補修。	二二八	二二八	
会報ほか	一五	一五	
(計)	(三八四)	(三八四)	(万円)

## 事務局だより

### ●七月一七日(日)

同窓会総会(キャバレーベンペラー)

●七月二二日(金)午後六時三〇分  
役員会(恵愛ビル)

●総会の反省

●母校創立七十周年の協力について

●母校創立七十周年の協力について

●八月二七日(土)  
東高創立七十周年

●祝賀会(グランドホテル)午後一時

●九月三日(土)四日(日)  
母校学校祭に参加

佐伯 昌夫(白石区菊水四条三丁目)

電話 八二一一七一四六

幹事会(北専会館)

●七十周年記念事業についての報告

◆年会費をお送りください。

同窓会の年会費は五〇〇円です。総会の際に払われた方もいらっしゃいますが、まだ未納の方は同窓会事務局(母校の事務)にあります。白石区菊水九条三丁目)又は郵便振替(振替番号は小樽二三五二八番)へ振込みください。

◆東京会準備中です。  
工藤恒美氏(東二期)を中心にして、準備を進めております。東京・近郊に在住の方々は、下記へご連絡ください。  
東京都豊島区長崎六丁目九上八  
電話 ○三一九五八十五九二四

## 編集後記

### 立冬も過ぎ、日毎に寒さが増して参りましたが、会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。重々ご自愛ください。

母校創立七十周年の記念事業のことは、より詳しくとは思いながらも紙面の都合で、写真頁と幹事長報告のみとなりました。ご理解ください。

各期の活動や地方会の様子をお知らせください。会報に関する意見・要望、投稿は、左記へお願いします。

ください。会報に関する意見・要望、投稿は、左記へお願いします。